

贈答場面における配慮表現
— 「つまらないものですが」の使用をめぐって—

塩川 奈々美、峪口 有香子、岸江 信介

Considerate Expressions in the Gift-giving situation:
On the Usage of Expression “*tsumaranaimonodesuga* (small gift)”

SHIOKAWA Nanami, SAKOGUCHI Yukako, KISHIE Shinsuke

言語文化研究 徳島大学総合科学部

ISSN 1340-5632

第24巻 別刷 2016年12月

Offprinted from *Journal of Language and Literature*

The Faculty of Integrated Arts and Sciences

Tokushima University

Volume XXIV, December 2016

贈答場面における配慮表現
— 「つまらないものですが」の使用をめぐる—

塩川 奈々美ⁱ 峪口 有香子ⁱⁱ 岸江 信介ⁱⁱⁱ

Considerate Expressions in the Gift-giving situation:
On the Usage of Expression “*tsumaranaimonodesuga* (small gift)”
Nanami Shiokawa Yukako Sakoguchi Shinsuke Kishie

Abstract

Though it is said that the usage of considerate expression “*tsumaranaimonodesuga* (small gift)” has been a traditional language behavior in the gift giving situation, some people nowadays tend not to use this expression. Accordingly this study aims at investigating the characteristics of considerate expression “*tsumaranaimonodesuga* (small gift)” in the gift-giving situation on the basis of analysis of data collected by interviewing the people in Osaka City and conducting questionnaire survey through correspondence in all over Japan.

The outcome of the interview at Osaka city shows that the people, especially women, like to use positive expressions for conveying the humility expression and gift-giving expression ($P < 0.01$). In addition, the outcome derived through the questionnaire survey throughout Japan revealed a distribution of the usage of *tsumaranaimonodesuga* which shows that the usages of this expression are concentrated in West Japan surrounding around the Kinki region. Hence it can be assumed that there likely exists a regional difference in the usage of this very expression.

Thus this study reveals that there exist a variation in gender and generation of the respondents with regard to the usage of considerate expression given that there prevails some discrepancy in the respondent selection and questionnaire patterns.

ⁱ Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Tokushima University
Research Fellow of the Japan Society for the Promotion of Science(DC1)

ⁱⁱ Graduate School of Engineering, Tokushima University

ⁱⁱⁱ Institute of School of Integrated Arts and Science, Tokushima University

1. はじめに

日本には日常生活での贈答場面において「つまらないものですが」「大したものではありませんが」という前置きを述べてから贈答品を渡す習慣がある。定型表現ではあるものの、このように自らの贈り物を「つまらないもの」「大したものではない」と謙遜することで、相手への敬意を表し、良好な人間関係の維持に繋げる狙いがある。これは「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられる言語表現」(p. 143)という山岡ほか(2010)に定義される配慮表現に通じるものである。

本稿では、このような贈答場面における配慮表現に着目し、計量的手法を用いて大阪市域における配慮表現をさぐる。また、大阪市で実施した面接調査によって得られたデータをもとに大阪市域でのこの配慮表現に関する動向をみる。さらに、全国を対象とした通信調査で得られた結果との比較を試みる。

2. 調査概要

本稿で扱うデータは2015年～2016年にかけて実施した2種類の調査(大阪市調査、全国通信調査)で集められたものである。以下に各調査の概要と本稿で扱う設問を示す。

2.1 大阪市調査

大阪市調査では、日常生活におこなわれる配慮表現を調査するために12の場面を設けた調査票を用いた。それぞれの設問には「山田さん：普段付き合いのある目上の人」に対する場面(以下、《山田場面》とする)と、「田中さん：日頃からたいへんお世話になっている目上の人に対する場面」(以下、《田中場面》とする)の二場面を設定した。相手が異なることによって言語行動にどのような違いがみられるか、場面差を設けて、特に配慮表現の差に注目した。話者には《山田場面》と《田中場面》に相当する具体的な人物2名を想定してもらい、回答を得た。大阪市調査の概要は以下の通りである。

調査期間 : 2015年9月17日～同年9月21日

調査対象 : 大阪市内に住む50歳以上(調査時)の男女

調査方法 : 面接調査

話者数 : 68名(男:33名, 女:35名)

調査員 : 岸江信介・真田信治・中井精一・鳥谷善史・西尾純二・松丸真大・清水勇吉・徳島大学日本語学研究室に所属する学生17名(学部学生8名、大学院生9名)・徳島大学社会人ボランティア2名

本稿で扱うのは贈答場面に関する設問 13 および設問 14 であり、設問 13 が《山田場面》、設問 14 が《田中場面》に関する問いである。

以下に設問 13 の質問文を示す。《田中場面》の設問 14 の質問文は「山田さん」に関する内容と同じで「田中さん」の部分が置き換わったものに過ぎないため、掲載を割愛する。

また、設問 13.3 は質問文の括弧書きにあるように設問 13.1 「つまらないものですが」という言い方をしなかった回答者で、かつ設問 13.2 で「1. ある」を選択した人物のみが対象となる設問である。設問 13.3 を回答した人は少なく、また、設問 13.3 で得られた回答はいわば調査員によって要求された表現であることから、本稿では分析の対象としていない。

【質問文】

13. 先日、野菜をもらった（あるいは自転車を直してもらった）お礼にと、普段付き合いのある目上の山田さん宅に和菓子を持参して訪ねました。

13.1 このような場面で山田さんに和菓子を渡す時、どのように言って渡しますか。【自由回答】

13.2 （前問 13.1 で「つまらないものですが」といった言い方をしなかった場合のみ）この時、「つまらないものですが」とか「大したものではありませんけど」などということがありますか。

【選択問題】 1. ある（→13.3 へ） 2. ない（→13.4 へ）

13.3 （前問 13.2 で「1. ある」と回答した方のみ）では、どのように言いますか。その言い方を教えてください。【自由回答】

13.4 このような場合、世間の常識として「つまらないものですが（つまらんもんですけど）」とか「たいしたものではありませんが」といった言い方は、親しい目上の山田さんでも、言う必要があると思いますか。

【選択問題】

1. 言うべきだと思う
2. 言った方がよい
3. 言わなくてもよい
4. 言うべきではない

2.2 全国通信調査

全国通信調査では、日常生活における配慮表現に関する 17 の場面設定がなされており、基本的には 1 つの場面に対して声を掛ける人物が異なる 2 場面を設定している。しかし、本稿で扱う贈答場面に関する設問には人物設定による場面差を設けておらず、「日頃からいろいろとお世話になっている近所の町内会長さん」

に対して発言する場面のみである。

全国通信調査によるデータ収集は2016年9月27日現在も継続しているが、ここでは地図化に用いたデータ（2016年8月5日時点）と贈答場面に関する設問11の質問文を示す。

- 調査期間** : 2015年7月10日～ 2016年9月30日（現在進行中）
調査対象 : その地域^{iv}に生まれ育った50歳以上（調査時）の男性
調査方法 : アンケート郵送による通信調査
話者数 : 767名（2016年8月5日時点）

【質問文】

11. 日頃からいろいろとお世話になっている近所の町内会長さんから先日、野菜をたくさんもらいました。しばらくして、たまたま旅行に出かけた折に買ったおみやげ（高級なメロン）を、その時のお礼にと、おみやげを渡しに町内会長さんの家を訪ねました。
- 11.1 町内会長さんにお土産を渡すとき、何か言うとすればどう言いますか。
- 11.2 この時、この町内会長さんに「つまらないものですけど・つまらんものですけど」とか「たいしたものではないんですけど・たいしたものやないんですけど」といったような、謙遜するようなことをまず言ってからおみやげを渡すことがありますか。
- 11.3 それでは、プレゼントや贈答品を特に目上の人にあげる時、比較的高価なものであっても「つまらないものんですけど」とか「たいしたものではないんですけど」といったような謙遜の言い方をした方がよいと思いますか、それとも必要はないと思いますか。

2.1 大阪市調査と2.2 全国通信調査にはそれぞれに贈答場面に関する問が設けられているものの、調査方法・調査対象・質問文などその前提となる条件は異なったものである。そのため、単純に相互の結果を比較することはできない。

^{iv} 都道府県の面積に応じて調査地点数の目安を設け、調査依頼を実施した。依頼先となる自治体の選定にあたっては地理的な偏りが生じないよう配慮した。

3. 贈答場面における配慮表現に関する先行研究

贈答場面において「つまらないものですが」「大したものではありませんが」といった、へりくだりの表現を用いるのは日本の風習・文化に基づく表現であり、外国語に翻訳しにくい表現であるといわれている（加藤 2009）。

また、「つまらないものですが」という表現に関する大規模な調査として文化庁（1998・1999・2012）や徳川（1993）による報告がなされている。

徳川（1993）における報告は昭和 56 年度（1981 年）から昭和 57 年度（1982 年）にかけて国内外の高校生 1,657 人を対象にした調査によるものである。日本国内では青森県、宮城県、神奈川県、静岡県、岐阜県、大阪府、鹿児島県、沖縄県の高校 9 校（大阪府のみ 2 校）の 1,113 人が対象となっている。高校生を対象に配慮表現の地域差をみようとしたものであるが、「つまらないものですが」という表現については「大阪（高石）で「つまらないものですが」に非好意的なものが多い」と言及されるのみで、明らかな地域差が確認されたとは言い難い。

文化庁による調査は「国語に関する世論調査」である。この調査は平成 7 年（1995 年）から毎年おこなわれており、全国の 16 歳以上の男女 3,000 人を対象としたものである。「つまらないものですが」という謙遜表現に関する問いは毎年設けられたものではなく、実施されたのは(a)平成 9 年度（1997 年 11 月 28 日-12 月 17 日）、(b)平成 10 年度（1999 年 1 月 8 日-1 月 22 日）、(c)平成 23 年度（2012 年 2 月-3 月）である。それぞれ、「全国の 16 歳以上の男女 3,000 人（平成 23 年度のみ 3,474 人）」が調査対象となっており、有効回答は(a)2,190 人、(b)2,200 人、(c)2,069 人である。調査結果は次のように示されている。

(a)平成 9 年度（1997 年調査）：

「人に贈物をするときに『つまらないものですが』などと謙遜するかどうか」
 ・ ・ ・ 「する」と回答した人 51.4%

(b)平成 10 年度（1999 年調査）：

「（人に贈物を渡すとき）『つまらないものですが』という言い方を使うことがあると思うか」
 ・ ・ ・ 「使うことがある」と回答した人 67.8%

(c)平成 23 年度（2012 年調査）：

「（人に贈物を渡すとき）『つまらないものですが』という言い方を使うことがあると思うか」
 ・ ・ ・ 「使うことがある」と回答した人 60.8%

また、この結果を受けて、地域差と世代差に注目した調査結果が塩田（2012）で報告されている。塩田（2012）の報告に関する調査は 2012 年 1 月-2 月に実施

されたものであり、「20歳以上の男女2,000人」を対象におこなわれ、有効回答は1,338人となっている。

塩田(2012)によると、「つまらないものですが」という表現について男性が女性よりも「【全面支持】^v」が多い結果となっており、さらに女性は50歳以上において比較的支持が得られていない(=言う・言わないに関わらず、「おかしい」と思う)結果となっている。地域差の観点からみると、東北と東海で有意に少ないという結果が得られている。塩田氏は清(2003)による調査結果^{vi}も踏まえた上で「静岡県を含む東海地方は「つまらないものですが」を相対的にあまり使わない地域として位置づけられていることがわかった。つまり、「つまらないものですが」は、日本語全体としては、東海地方での使用実態よりも、もう少し頻繁に使われているはずである」と述べている。

4. 結果

4.1 「つまらないものですが」の使用に対する認識

贈答場面における「つまらないものですが」という表現に対して、大阪市の人々はどうのように捉えているのだろうか。ここでは大阪市調査の結果から「つまらないものですが」の表現に対してどのような認識を示すのか、その調査結果を集計する。

集計の対象は大阪市調査の設問13.2、13.4《山田場面》および14.2、14.4《田中場面》の回答である^{vii}。

設問13.2・14.2では贈答場面において「つまらないものですが」という表現を

^v 塩田(2012)では「つまらないものですが」という表現について、「言う・おかしくない」「言う・おかしい」「言わない・おかしくない」「言わない・おかしい」「わからない」の5つの評価によって回答を得、集計している。塩田氏は「言う・おかしくない」の選択について「【全面支持】」という表現を用いて論じている。

^{vi} 清(2003)では静岡県内で実施した5種類の調査から、贈答場面において「つまらないものですが」という表現がよく用いられるのか、その使用実態を検証している。調査の詳細は文献元を参照されたい。結論として、静岡県下における「つまらないものですが」という表現の使用率は低く、「必ずしも代表的なものとは言えなかった」(p.27)としている。

^{vii} 集計対象である設問13.2・14.2は、先行する設問13.1および14.1で「つまらないものですが」に関する表現が用いられなかった場合に問われる問題である。この設問を集計するため、設問13.1と14.1で「つまらないものですが」に関する表現を用いた話者の回答は「言う」に相当するものとして処理した。

「言う」か「言わない」かについて、男女差の観点からカイ二乗検定をおこなった。続く設問 13.4・14.4 も、同じく男女差の観点からカイ二乗検定をおこなったものだが、こちらは「言うべき」か「言うべきでないか」についての回答である。選択肢は4択（本稿 2.1 項参照）であったため、「1. 言うべきだと思う・2. 言った方がよい」の回答を「支持」、「3. 言わなくてもよい・4. 言うべきではない」を「不支持」として集計した。

まず、贈答場面において「つまらないものですが」という表現を言うかどうかについての検定結果は表 1 および表 2 の通りである。

普段付き合いのある目上の人を想定した《山田場面》における使用については、男女に有意差が確認された ($p < 0.01$ 、表 1 参照)。「つまらないものですが」という表現について、男性は「言う」傾向にあるのに対し、女性は「言わない」とする意見が多いことがわかった。

日頃からたいへんお世話になっている目上の人を想定した《田中場面》においても、男女の間に有意差がみられた ($p < 0.01$ 、表 2 参照)。《田中場面》で「つまらないものですが」という表現を使用することについて、男性は「言う」と「言わない」の意見が同数程度であるのに対し、女性は《山田場面》同様、「言わない」とする意見が多い。

表 1 と表 2 の結果から、女性は相手が誰であるかに関わらず、「つまらないものですが」という表現を「言わない」傾向にあることがわかる。一方、男性は、女性よりもこの表現を用いる傾向にあるが、《田中場面》における回答が《山田場面》よりも差が小さいことから、目上に対する場面となった際に使用するかどうかの意見が分かれるようである。

続いて、設問 13.4 と 14.4 の検定結果をそれぞれ表 3、表 4 に示す。贈答場面で「つまらない物ですが」という表現を言うべきか否かの回答について、男女間で有意差がみられる ($p < 0.01$ 、表 3・表 4 参照)。

男性は《山田場面》と《田中場面》のいずれも支持と不支持がほぼ同数^{viii}であるのに対し、女性はいずれの場面においても不支持である。表 1、表 2 の結果と同様、贈答場面に「つまらないものですが」という表現を用いることに対して女性は男性よりも明らかに否定的に考えていることがわかる。

^{viii} 設問 13.4 では男性の無回答 2 件が除外されている。

表1 「つまらないものですが」を言うか(《山田場面》の男女差)

	言う	言わない	総計
女	12	24	36
男	21	11	32
総計	33	35	68

期待値(女) 17.47 18.53

期待値(男) 15.53 16.47

p値 0.0078 ** *p<0.05
**p<0.01

表2 「つまらないものですが」を言うか(《田中場面》の男女差)

	言う	言わない	総計
女	8	28	36
男	17	15	32
総計	25	43	68

期待値(女) 13.24 22.76

期待値(男) 11.76 20.24

p値 0.0083 ** *p<0.05
**p<0.01

表3 「つまらないものですが」を言うべきか(《山田場面》の男女差)

	支持	不支持	合計
女	8	28	36
男	16	14	30
合計	24	42	66

期待値(女) 13.09 22.91

期待値(男) 10.91 19.09

p値 0.008892 ** *p<0.05
**p<0.01

※無回答2件を除外

表4 「つまらないものですが」を言うべきか(《田中場面》の男女差)

	支持	不支持	合計
女	9	27	36
男	19	13	32
合計	28	40	68

期待値(女) 14.82 21.18

期待値(男) 13.18 18.82

p値 0.004042 ** *p<0.05
**p<0.01

ここで留意しておきたいのは、表 1 と表 2 の結果は設問 13.1・14.1 の自由回答の結果も踏まえたものであることである。脚注^{vii}に示した通り、カイ二乗検定をおこなう前処理として、設問 13.1・14.1 で「つまらないものですが」という表現を用いた場合、設問 13.2・14.2 の回答を「言う」に振り分けた。そのため、表 1・表 2 の結果は、回答者の使用実態に近い感覚で回答されている。言うべきかどうかと改めて尋ねられると意見が分かれているが、設問 13.1・14.1 において男性は多くこの表現を使用しているのである。

4.2 大阪市調査の結果からみた贈答場面で用いる配慮表現

では贈答場面において大阪市の人々はどのような表現を用いているのだろうか。設問 13.1 および 14.1 で得られた自由回答をもとに分析をおこない、大阪市調査で回答された表現の傾向をさぐる。

4.2.1 回答に用いられた表現

表 5・表 6 に今回の大阪市調査で得られた贈答場面における配慮表現を示す。表 5 が《山田場面》の回答、表 6 が《田中場面》の回答である。一部のみ掲載としたのは、すべての回答は岸江編 (2016)^{ix}に掲載されているためである。

「つまらないものですが」「わずかですが」「口に合うかどうか」といった謙遜型の表現がみられる一方で、「気持ちです」「お礼です」といった感謝の品であることを表明しているものや、「美味しいので」のように品物を肯定的に評価して渡す表現も注目される。本稿 2.1 に示したように、ここに取り挙げる贈答場面は過日世話になった（野菜を貰った、または自転車を修理してもらった）お礼に贈答品を持って相手宅を訪問した場合を前提としているため、感謝の言葉を述べ、御礼の品物を持参したことへの言及が多い。

設問 13.1 と 14.1 の回答を比較すると、より気をつかう相手である《田中場面》の方が全体的に述べられる表現が多く、長い言い回しをする傾向にあるようである。他方で、以下に示すように、非常に簡潔な表現も確認できる。このような簡潔な表現は男性に多く、複雑な言い回しをしない姿勢が表れている。

- ・「つまらんもんですけど、どうぞ。」【82 歳男、13.1】
- ・「お口汚しにどうぞ。」【71 歳男、13.1/14.1】
- ・「こないだありがとう。悪いねー。ま、これ一つ。」【81 歳男、13.1】
- ・「こんなしょーもないもんやけど、まあ食べといてくれる？」【同上、14.1】

^{ix} 徳島大学日本語学研究室に PDF 版を公開中である。

<http://1431320719.jimdo.com/>（徳島大学日本語学研究室で検索可能。）

表 5 設問 13.1 回答 (一部)

性別	年齢	13.1回答
F	73	お野菜たくさんいただいて助かりました。これはちょっとお礼の気持ち少しですけども召し上がっていただけますか。
F	74	先日はお野菜ありがとうございました。お口に合うかどうかわかりませんが、お菓子お持ちしましたので皆さんでお召し上がりください。
M	63	この前の自転車のあの時、自転車、修理手伝ってもうてありがとうございます。ちょっとこれつまらんもんですけども、持ってきましてんで食べてください。
M	67	こないだはチェーン直すのに助けてもらっておおきにすまませんでした。これその時のお礼です。ねん。受け取って。
M	67	こないだは野菜もろて、またこないだは自転車つどうてもうて、どうもありがとうございます。おおきにおおきに。
M	72	いや、こないだありがとうございます。おかげで助かりました。つまらないものですが、これ、お礼にと持ってきました。
M	80	言わない
M	82	つまらないんですけど、どうぞ。
F	61	こないだはありがとうございます。あのお野菜ホント美味しかったです。これちょっとやけど、どうぞ。
F	68	山田さん、先日は大変助かりました。ありがとうございます。これ、気持ちだけですが、お口に合いますかどうか。
F	78	こないだはお野菜ありがとうございました。助かりましたわ。これちょっと、お口に合うかどうかわからないんですけど、お茶の時にちょっと上がってちょうだい。
M	78	先日はたくさんの野菜を頂戴してありがとうございました。物を買うついでがありましたのでお土産を持って参りましたのでお納めください。

表 6 設問 14.1 回答 (一部)

性別	年齢	14.1回答
F	73	まあこないだはねえお手止めて時間もつかってあの時は助かりました。ちょっとお礼の気持ちで和菓子、お茶菓子持ってきたんですけど、お茶でも一緒に召し上がってください。
F	74	先日はお野菜ありがとうございました。ほんの気持ちでございますが、こちらうちの皆さんとお召し上がりいただきたいと思ってお持ちしました。
M	63	田中さん、この前は自転車修理してもらいましてありがとうございます。これつまらんもんですけども、食べてください。
M	67	いつもお世話になってます。このお菓子日頃からお世話になってますので是非もらってください。
M	67	こないだはようけ野菜もうて、おおきにおおきに。こんなもんやけども、いつものもんやけども、家族で食べて下さい。
M	72	先日はありがとうございます。つまらないものですが、これ、お受け取りください。
M	80	先日はお世話になりました。
M	82	こないだはどうも野菜をたくさん頂戴して、今日はえらいつまらんもんですけども、一つお菓子でも食べてください。
F	61	こないだはありがとうございます。あのお野菜ほんとに美味しかったです。これ少しですけども、どうぞ。
F	68	先日は大変助かりました。ありがとうございます。感謝の気持ちですが、お口に合いますかどうか。召し上がってください。
F	78	お野菜いただいた場合は、先日お野菜いただいてありがとうございました。大変おいしいによべれましたよ。まあこれちょっとお口に合うかどうかわかりませんがお茶請けにどうぞ。自転車の場合は、先日大変お世話になりました。助かりました。ありがとうございます。これちょっとお口に合うかどうかわからないんですけど、お茶の時にどうぞ召し上がってください。

特に《山田場面》において、目上の人物でありながらも親しい相手であることから気をつかわせまいとする配慮がみられることも特徴的である。

- ・「先日はたくさんの野菜を頂戴してありがとうございました。
物を買うついでがありましたのでお土産を持って参りましたのでお納めください。」【78歳男、13.1】
- ・「先日お野菜いただいて、ありがとう。すごくおいしかったよ。〇〇して食べました。これちょっといただいたもんやけど食べて。」【74歳女、13.1】

4.2.2 贈答場面の配慮表現を構成する表現

4.2.1 で事例的に取り挙げた配慮表現について、ここでは KHCoder^xによる対応分析を試みた。

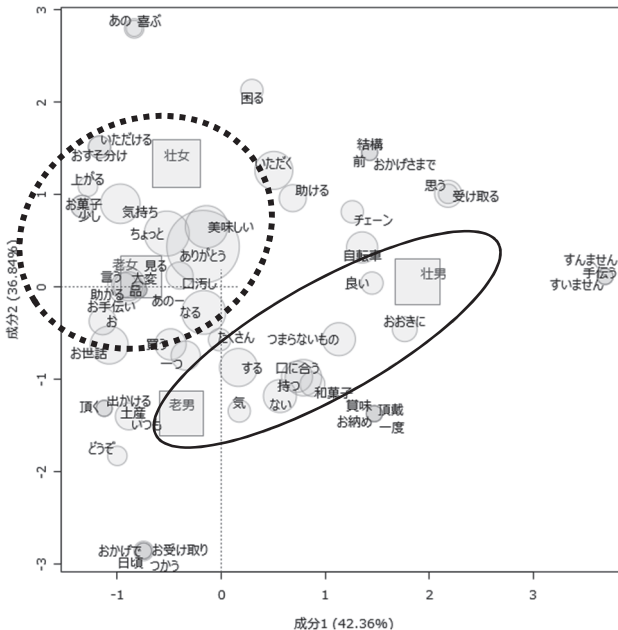


図1 設問13.1 対応分析《山田場面》

^x 樋口耕一氏（立命館大学）が開発したテキスト型（文章型）データを統計的に分析するための無料のテキストマイニングソフトウェア。参考 URL <http://khc.sourceforge.net/>

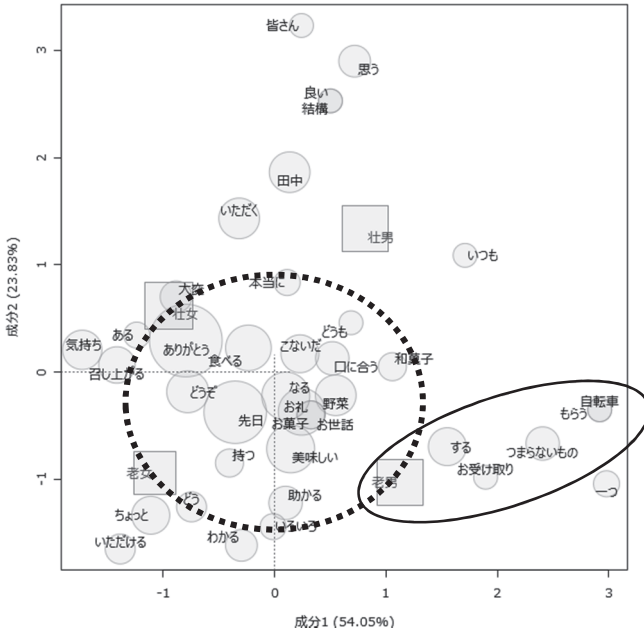


図2 設問 14.1 対応分析《田中場面》

対応分析をおこなうにあたっては男女と老年層（70歳以上）・壮年層（50歳～69歳）の掛け合わせを変数としている。原点（0,0）付近であるほど変数に影響されず用いられている表現であり、枠外に示される成分1・2は、パーセンテージを足した数値が100%に近くなるほど、分析結果の信頼度が高いことを意味する。図1・図2に対処分析の結果を示す。

図1から《山田場面》の解析結果をみてみると、〈壮年層・男〉と〈老年層・男〉の間に「つまらないもの」「口に合う」がプロットされている（実線円）。ここから、これらの表現は男性が多く用いたものであることがわかる。また女性の変数を中心に「ありがとう」や「気持ち」の感謝表現、「どうぞ」「召し上がる」といった勸奨表現がみられる（破線円）。

さらに、破線円の中における表現は実線円の中にみられるそれよりもバリエーションが豊富であるため、女性の方が男性よりもさまざまな形式を用いて配慮を表明していると読み取ることができる。このことは、相対的に男性が定型的な表現を好んで用いていることと対照的である。

一方、図2では、図1よりも表現が集約され、いずれの変数も共通して用いられる形式が多い。たとえば、「こないだ/先日/どうも/ありがとう/お世話/なる/お礼/お菓子/持つ」(破線円)などから、過日世話になったことへの言及、御礼の言葉、返礼の品としてお菓子を持参したことに触れている様子が窺える。そうした中でも「つまらないものですが」は〈老年層・男〉に偏っていることから、男性に多く使用された表現であることが確かめられる。

5. 全国通信調査の結果

続いて、全国通信調査の結果を示す。本稿2.2でも言及したが、全国通信調査のデータは大阪市調査とは場面設定や質問内容が異なるため、単純に比較できるものではない(調査概要は本稿2.2を参照されたい)。しかしながら、本調査は、配慮表現について全国規模で実施した通信調査であり、サンプル数も767名と多い。調査条件は50歳以上の全国各地の土地生え抜きの男性に限ったものとなるが、参照・比較する価値は十分にあるものとする。

ここでは全国通信調査によって得られた贈答場面における配慮表現の中でも「つまらないものですが」を中心とした謙遜型の表現の全国的な分布を示すことを目的としたい。地図化はArc GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) を利用した。凡例の数値はパーセンテージ (%) を表す^{xi}。

まず、自らの品物を謙遜する表現全般を「謙遜表現」として全国地図に示した(図3)。

「つまらないものですが」「大したものではありませんが」といった謙遜表現を使って回答した人の分布(都道府県単位に集計したもの)をみると、謙遜表現は全国的に分布しているが、東北地方・日本海側を中心とした東日本を中心に使用率が低い傾向が窺える。また、清(2003)・塩田(2012)に指摘された静岡県、神奈川県など東海地方においても謙遜表現による回答率は低い結果となった。高い使用率を示したのは栃木県、京都府、徳島県、高知県、大分県であり、使用率の比較的高い府県が西日本に集中する傾向がみられる。

図4では謙遜表現の中でも贈る品を「つまらないもの」と評する前置き表現の分布を示した。図3では全域的に謙遜表現が分布していたが、「つまらないものですが」に関する表現に限定すると、その分布は近畿地方を中心とした西日本寄

^{xi} 地図の凡例はArc GISによる自然分類に基づく5段階で作図したが、各県の回答者の母数を考慮すると下2段階は10%未満(1~2人)であったため、凡例を集約し、4段階とする処理をした。

りであることが窺える。東北地方や九州地方など周辺部ほど色合いが薄く、使用率の低い地域が目立つ。しかし、中心部である近畿地方の中でも大阪府、和歌山県、滋賀県ではこの表現の使用は少ない。

全国通信調査のデータではないが、大阪市調査では話者による「つまらないものですが」という表現の使用に関する内省を得、その中で「つまらないものですが」という表現について「自分の母/祖母は言っていたけれど、自分は使わない」とする意見が多く寄せられた。加えて、「つまらないものですが」という表現を使わない理由として多かったのが「つまらないものはあげない。(または「つまらんもんは要らん」と言われてしまう。)」というものであった。

「つまらないものですが」という表現はもともと贈答場面の伝統的かつ典型的な表現として使用され、認知されていたが、時代の変化とともに「謙遜し、相手を立てる」という本来の意味で受け取られにくくなりつつある地域がある

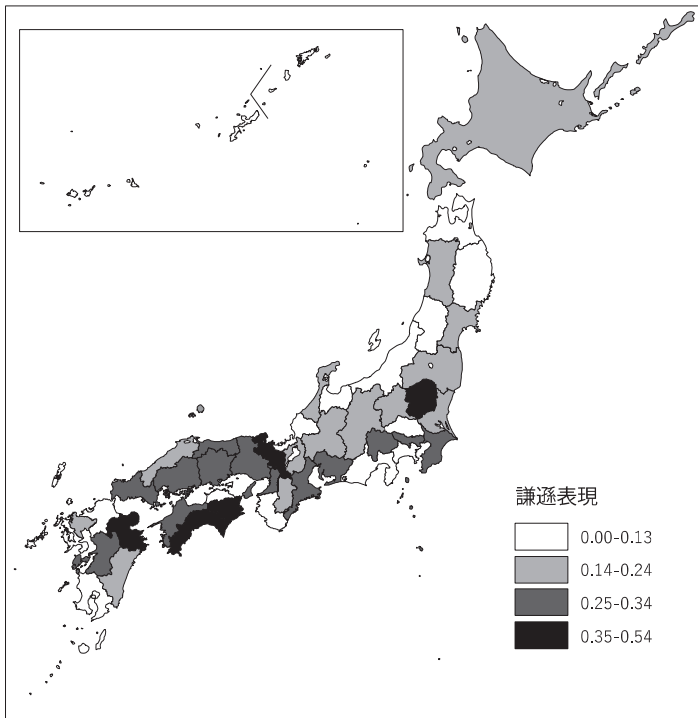


図3 謙遜表現の全国分布

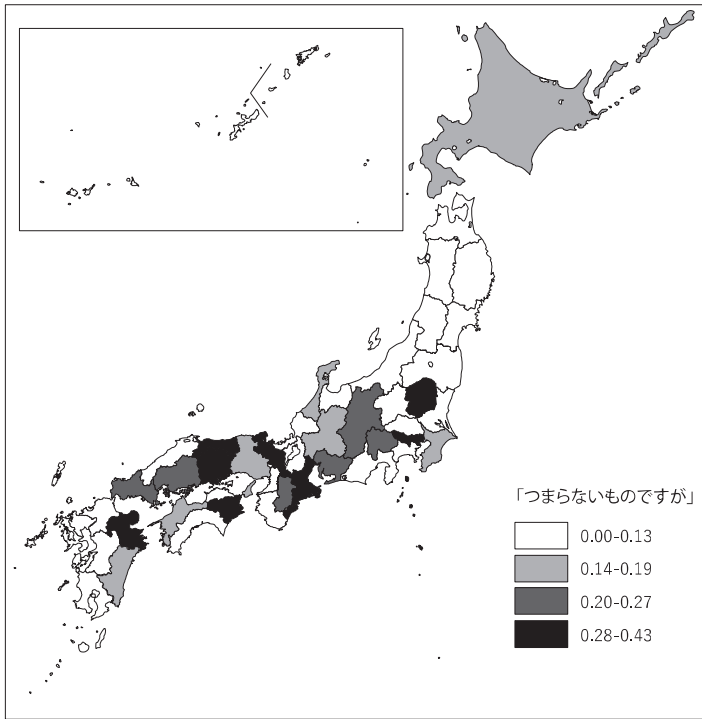


図4 「つまらないものですが」類の全国分布

のではなかろうか。謙遜表現は全国的に分布している状況にあることから、「つまらないものですが」という表現に変わる表現が支持されている可能性がある。全国通信調査で確認されたその他の謙遜表現として、「少しですが」と「お口に合うかどうか」に関する地図を作成した（図5、図6参照）。

図5は「ほんの少しですが」（「ほんのちょっとですが」などの表現も含む）といった贈る品がわずかばかりであることを前置きする表現の分布を示したものである。図6では贈る品を渡す相手が気に入るものかどうかを気遣った表現の分布を示している。

全国通信調査は2016年9月30日現在進行段階にあるため、最終的な分布とは必ずしも合致しないかもしれないが、島根県や高知県、九州各県など西日本各県で、図4「つまらないものですが」の回答がほとんど見られなかった地域にこれに代わる配慮表現として「少しですが」「ほんのちょっとですが」の回答が多い傾向があることが確認できる。

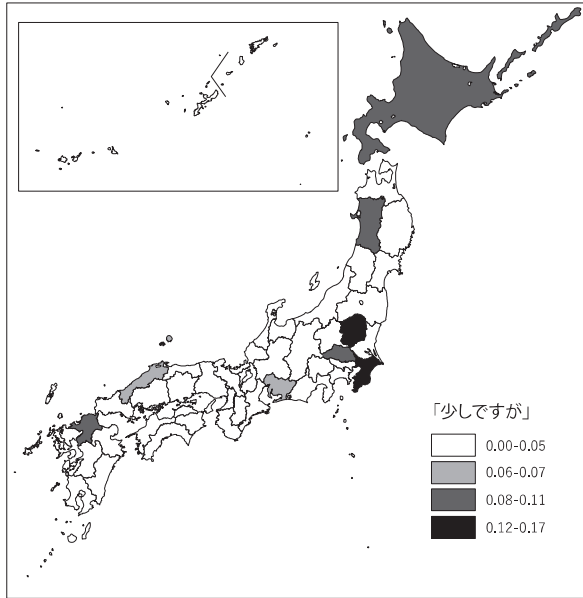


図5 「少しですが」類全国分布

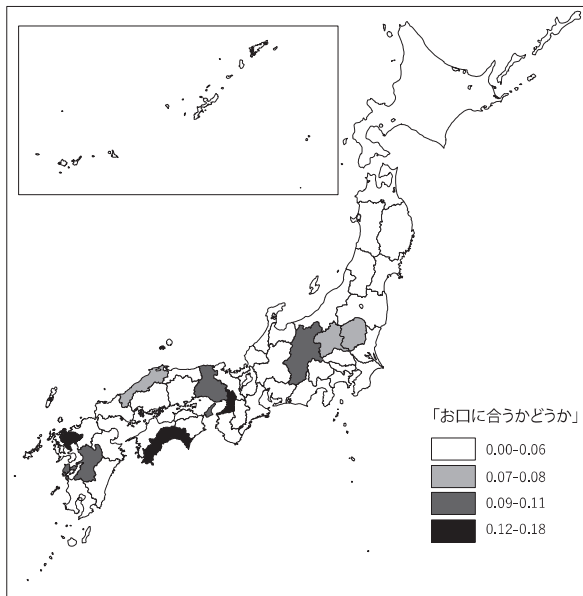


図6 「お口に合うかどうか」類の全国分布

6. 考察—大阪調査の結果を中心に—

大阪市調査の結果では「つまらないものですが」という表現の使用に対する認識については、男性よりも女性の方が「つまらないものですが」という表現の使用に否定的であるということが判明し、男女差が確認された。贈答場面で述べる言葉を回答してもらった設問 13.1・14.1 の対応分析の結果からも「つまらないものですが」の使用は男性に偏っており、このような定型表現を男性は好んで用いる傾向があることが判明した。一方、女性はバリエーションが多く、さまざまな表現を駆使して配慮を表明する傾向が窺われた。

「つまらないもの」という表現は謙遜の意味ではあるものの、贈る品そのものを卑下する表現であるため、その点でこの表現を用いることが特に女性に避けられてしまうようである。想像の域を超えるものではないが、本稿で扱った設問内容は先日世話になったお礼として菓子を持参するというものであるため、御礼の品を卑下することに対する抵抗感が女性に一段と大きかったのではなかろうか。

「つまらないものですが」が定型的な表現であるということを知りつつも、女性は返礼の品として自分が選んだものに対するこだわりが強く、せっかくお礼にと選んだ品物を悪く言うことができないのかもしれない。

一方、男性が「つまらないものですが」という表現を用いる傾向が強かったのは、対応分析の結果にもみられるように男性が使用する配慮表現のバリエーションが少なく、パターン化されているためではなかろうか。使用する表現が多岐にわたらないのであればおのずと使用される表現も決まってくる。謙遜を表す定型表現を好んで使用することは、相手に対する敬意の表明はもちろん礼儀を重んじることに繋がる。男性にとっては、品物に対するこだわりよりも「つまらないものですが」といった定型表現を使用することで丁寧な敬意表明や礼儀を優先させる傾向があるのかもしれない。

7. おわりに

本稿では、贈答場面における配慮表現について、大阪市調査の結果と全国通信調査の結果を集計し、分析した。「つまらないものですが」という贈答場面における謙遜表現は、男性が多く使う傾向がみられる一方、女性では使用が少なく、このような表現の使用が否定的に捉えられていることがわかった。

性差が顕著であった点を考慮すれば、今後追調査として女性を対象に全国通信調査を展開する価値は十分にあるだろう。今後も調査を継続する予定である。

*本稿は2016年8月12日に南京晓庄学院(南京市,中国)にて開催されたUrban Language Seminar 13において「大阪市域の贈答場面における言語行動:テキストマイニングによる分析と全国調査との比較を通じて」と題して発表した内容を再度検討し改稿したものである。

*本研究は日本学術振興会(JSPS)科研費15H03211の助成を受けたものである。

参考文献

- 加藤典子(2009)「英訳しにくい日本語表現」『東京工芸大学工学部紀要』Vol. 32No. 2、pp. 52-55、東京工芸大学工学部
- 岸江信介編(2016)『近畿方言における配慮表現:研究成果報告書(1)-大阪市域調査編-』平成27-29年度科学研究費補助金(基盤研究(B))「近畿方言における配慮表現の研究」(研究代表者:岸江信介(徳島大学)、課題番号:15H03211)、徳島大学日本語学研究室
- 塩田雄大(2012)「現代人の言語行動における“配慮表現”:「言語行動に関する調査」から」NHK放送文化研究所編『放送研究と調査』7月号 pp. 66-83、NHK出版
- 清ルミ(2003)「「つまらないものですが」考:実態調査と日本語教科書との比較から」『異文化コミュニケーション研究』第15号 pp. 17-39、神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 徳川宗賢(1985)「ことばづかひの風土」九学会連合日本の風土調査委員会編『日本の風土』pp. 51-69、弘文堂
- 徳川宗賢(1993)「ことばづかひの風土性」『方言地理学の展開』ひつじ研究叢書:言語編第1巻、ひつじ書房
- 文化庁(1998)『平成9年度国語に関する世論調査』大蔵省印刷局
- 文化庁(1999)『平成10年度国語に関する世論調査』大蔵省印刷局
- 文化庁(2012)「平成23年度「国語に関する世論調査」の結果の概要」『国語に関する世論調査の結果について』
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現:日本語語用論入門』明治書院